

当院における透析時間延長のための臨床工学士（CE）の取り組み

長崎腎クリニック¹⁾、長崎腎病院²⁾

○池田康平¹⁾、田中 健¹⁾、矢野利幸²⁾、高木伴幸²⁾、橋口純一郎¹⁾、原田孝司²⁾、
船越 哲²⁾

【背景】

2010 年に日本透析医学会の「わが国の慢性透析療法の現状」と当院の透析療法の現状を比較した結果、当院は多くの因子で全国の平均値以下である事が判明した。中でも透析時間 4 時間未満が 28.6%と全国平均の 21.4%を大きく下回り、これが透析効率低下の要因のひとつと考えられた。

【目的】

当院での透析効率向上のための CE の取り組みが、透析時間延長に繋がったプロセスを解析する。

【対象・方法】

当院維持透析患者 56 名を対象とし、CE が患者血清データを管理し、患者への定時検査の説明はスタッフから行うようにした。また、2010 年と本年の患者血清因子データ・透析条件を起点として、全国データとも比較しつつ 3 か月毎に主治医に至適透析条件に関して提言を行った。

【結果】

当院の透析効率 Kt/V では 2010 年の 1.23 から 1.42 へ有意 ($P<0.001$) に改善しており、また 4 時間未満の短時間透析が 28.6%から 19.6%まで減少した。

【考案】

透析効率改善のためには透析時間延長が最も効果的であるが、現実には患者の意識を変えるのが困難であることが多い。今回我々は定期的・継続的な CE から主治医への透析条件改善の提言を行い、スタッフへのデータ把握を啓発したところ、結果的に短時間透析を減らすことができたことより、透析時間延長のためには医療チーム全体の取り組みが重要と考えられた。